



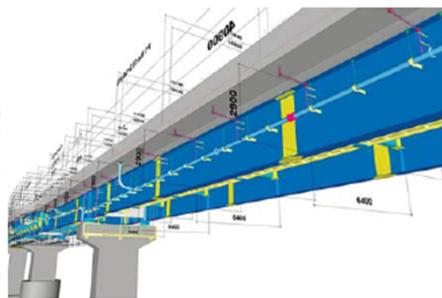
亀井部長(左)と
菅グループリーダー

橋梁CIMシステムの開発・販売、ICTサービス提供を手掛けるオフィスケイワン(大阪市)。主力商品である鋼橋用CIMシステム「CIM-GIRDER」は線形座標から主構造・付属物の数値入力によるパラメトリックモデリングソフトで、詳細度3001400に対応。鋼橋の上部工(鉸桁橋・箱桁橋)の3Dモデル、断面図、鋼材数量、BIM/CIM設計照査シート出力と、CIMモデルによる施工管理の高度化を支援する。

オフィスケイワン

建コンとメーカーの「ギャップ」解消

5月から「設計属性情報ファイル」の入出力提供も試行開始した。同ファイルは、設計側の「自動設計システム」から施工側の「自動原寸システム」へのデータ連携を目指したフォーマットで、日本橋梁建設協会(橋建協)が作成した。23年4月、橋建協と建設コンサルタンツ協会は「橋梁技術のデータ連携実装」を掲げ、24年度版は国際標準形式のひとつ・IFC形式についても標準仕様で対応可能になるなど、バージョンアップが図られている。同部技術グループの菅功人グループリーダーは今後の展開について「ユーザーにとってより使いやすいモデルへ着実に進化した。建設コンサルタントをはじめ、広く販売していきたい」と先



CIM-GIRDER

現場に対するヒアリングをラードバックしたことで、これまでであれば最低でも8時間、長いと30時間かかる作業を、2時間程度で完了できる。技術開発部の亀井透郎部長は、若手でもベテランでも、同じ品質の作業が可能となる」と説明する。

24年度版は国際標準形式のひとつ・IFC形式についても標準仕様で対応可能になるなど、バージョンアップが図られている。同部技術グループの菅功人グループリーダーは今後の展開について「ユーザーにとってより使いやすいモデルへ着実に進化した。建設コンサルタントをはじめ、広く販売していきたい」と先

橋梁上部工で新たなワークフロー実現

当社は橋梁上部工のBIM/CIMシステムを開発・販売している。コンサルが自動設計システムから設計情報属性(中間)ファイルを出力し、CIM-GIRDER経由で鋼桁3次元モデルを出力する。細部情報をCIM-GIRDERで入力し、付属物モデリング後に干渉チェックを実施して最終成果を中間ファイルに書き出す。データの確からし

オフィスケイワン
保田 敬一氏



の2次元図面にありがちな図面間の不整合がないデータが鋼桁製造ラインに連動し生産性も向上する。このような新しいワークフローの実現が建コン・橋建協・ベンダーの協力により間近に迫っている。微力ながら貢献したい。(代表取締役)